

農を強くし、農を守る農業農村整備事業の推進

1 地域のニーズに応じた基盤整備の推進

<現状・課題>

- 現状：農家の高齢化・減少に伴い、小規模経営体が半減する一方で大規模経営体は倍増
□0.3～1.0ha：14,592 (H17) → 5,543 (R7)
□5.0ha以上：148 (H17) → 325 (R7)
- 課題：生産性向上や集積・集約に向けた農地の大区画化等による生産基盤の強化が急務

「高知南国地区」国営事業



●大区画化と企業参入による大規模園芸の推進

(R9:面積30ha、事業費25億円)

県営事業



●大区画化による生産性向上と、高収益作物への転換を推進

(R9:面積40ha、事業費16億円)

➡ 基盤整備を推進し、担い手への農地集積・集約と生産性向上の取り組みを加速化

政策提言

1 基盤整備を加速化するための予算の確保

○農業構造転換集中対策期間における生産基盤の強化として、地域計画の実現に向けた農地の区画拡大等を集中的かつ計画的に推進し、優良農地を確保

2 農業用ため池の防災・減災対策

<現状・課題>

[7年度末時点 (30%)]

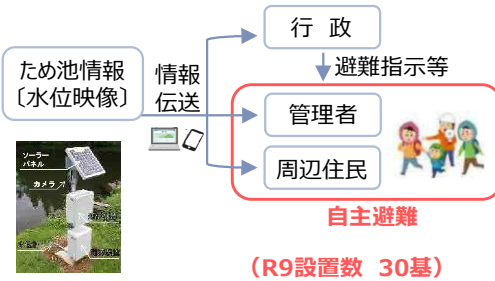
- 現状：防災重点農業用ため池の地震・豪雨対策として、216池の内、65池の対策工事完了
- 課題：ため池整備の早期完了
：地震・豪雨時の安全かつ迅速な状況把握と、周辺住民の安全確保

ハード対策

R9実施30池 (うち完了22池)



ソフト対策



➡ 防災重点農業用ため池の早期対策完了と安全確保に向けた監視体制を強化

政策提言

2/3 農村地域の防災・減災対策を加速化するための予算の確保

○ため池対策工事の早期完了と監視体制の強化に加えて、新たな取り組みとして、近年の集中豪雨に対応するため、排水機場へのポンプ増設など機能強化を推進

農業構造転換集中対策期間 (R7～R11年度)における県の取組

生産性・所得向上に向けた取組



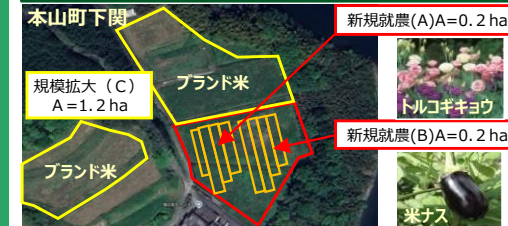
- 簡易整備 (畦畔撤去) による区画拡大の推進

農業水利施設の機能維持による用水の安定供給



- 老朽化した農業水利施設の長寿命化の推進

若者 (Uターン) の就農・所得向上に向けた取組



生産性・所得向上による産地の維持・強化



- 迅速かつきめ細かな基盤整備の推進

3 農業水利施設の機能強化

<現状・課題>

- 現状：排水機場の造成により、須崎市・芸西村では、施設園芸作物の産地化が進んだが、近年の集中豪雨により既設ポンプの排水能力が不足し、施設園芸団地で浸水被害が発生
- 課題：須崎市 (ミウガ)、芸西村 (ナス・ピーマン) は県内有数の産地であり、安心して営農を継続できる生産環境の整備が急務
- 主な浸水被害：須崎市 R4.7.5 (ミウガ2.0ha)、R5.8.17 (ミウガ0.7ha)
芸西村 R5.6.2 (ナス4.3ha)、R4.7.5 (ナス0.8ha)

施設園芸団地の浸水状況 (須崎市・芸西村)



➡ 近年の集中豪雨対策として、排水機場の機能を強化 (排水ポンプの増設)